



Sony TR-5

資料登録番号
EL-2012-3

1947年の暮れに、アメリカのAT&Tのベル研究所で新しい電子部品が発明されました。「トランジスタ」と名付けられたその部品は、真空管のように電気信号を増幅する働きがありました。なのに、真空管と比べると非常に小さく、消費電力も小さくてすみました。ただ、点接触型という初期のトランジスタは動作が安定せず、その後、接合型というタイプのトランジスタが発明され、実用的になっていきました。

そして1954年11月、アメリカで「Regency TR-1」というトランジスタラジオが発売されました。世界で最初に市販されたトランジスタラジオです。日本で最初にトランジスタラジオが市販されたのは、それからわずか10ヶ月後、1955年9月のことでした。東京通信工業という会社が発売した「Sony TR-55」というトランジスタラジオです。このラジオの名前でピンときた方も多いかもかもしれませんが、この東京通信工業という会社は、トランジスタラジオの販売が好調となり、1958年には製品のブランド名として使っていた「Sony」を会社名にして、現在に至っています。

その日本で最初に市販されたトランジスタラジオ「TR-55」は、今ではなかなか手に入らない貴重なラジオです。…が、「Sony TR-5」というトランジスタラジオを入手することができました。実は「TR-55」とこの「TR-5」は、外観はほとんど同じで、内部もほとんど区別が付きません。逆に、なぜ型番が違うのかがよくわからないくらい…。15年前に「半導体・半世紀～トランジスタ誕生50年展～」という企画展を行なったときに、ソニーに「TR-55を貸してください」とトランジスタラジオを貸していただいたのですが、届いたラジオの裏蓋内側の銘板には「TR-5」と書いてありました。ソニーの中でもあんまり区別していないのかもしれませんが。

ということで、日本の技術の歴史を語る上でとても重要なラジオであり、しかもこの「TR-5」はちゃんとメンテナンスされていて、実際にラジオを聞くこともできるのです。

長谷川 能三(科学館学芸員)



写真1 Sony TR-5



写真2 裏蓋内側の銘板